

私の地域活動

安藤 吉枝

地域力って何なのかこれまで意識しないで暮らしてきましたが、今日反省する機会に合い、ここに当時を振り返りながら書くことにしました。終戦以来いろんな生活を体験してきましたが、独り暮らしをして多く地域の皆さんにお世話になってきました。これらのことを柱として地域へのお礼をしなくてはと考え、何か地域に奉仕することを探しました。

たまたま町内会200世帯の会長に推薦を頂いたのが1983年。これを引き受けることになり、これを縁に新しい覚悟をもってことにあたることにし、その方針として地域の人々もどんどん年取ってきますし、健康を損ねる人もでてきますし、家に引っこもって友達を持たない人もいたり、そこで会のテーマとして私は「人々の暮らしの安全、安心、健康維持」を目標に定めたのです。同時に病気で困っている方には手を

差し伸べようと決めましたが、それらのことは別にヘルプ協会を立ち上げて活動することにしましたら、72名の参加者があり何とかやりがいを感じました。

このとき町内会とヘルプ協会について総会を開いて決めた目標で、とありあえず健康維持活動から始め先ず歩くこと、一〇〇〇円以内の交通費で自分たちの故郷の神社仏閣、郷土館、美術館を見学したり学習したりしすることからでした。造幣局や貨幣博物館など身近の所から見学したりそんなことで、歩行と頭脳活動で年間一二ヶ所は歩き回れ、楽しい学習となりました。そこで会報として「はっぴーねっと」というB4版、8ページの月刊紙をつくりPRに勤め、各家庭に配布したりし地域活動に努力をしてみました。153号で発病し終了。そんな会報の中から具体的な来年の夢も語りあうことができました。

また具体的な頭脳活動もしたいと提案があり、早速不便なことを探して発明をしようではないかと考えました。その考えの結論は玄関のドアチェーンを外から開ける鍵の試作でした。みなさん結構帰宅が遅く何か

いい方法はないかと思っっている人は多いようで、いろいろ図面を書いて面白い日々が続く、男性も熱中して地域は盛り上がりました。夜中に帰宅しても締め出しはくわないようになると笑い合っていました。

十一月には待望の「いちようまつり」にみんなで参加し、ワイワイいながら美しい黄色の木々に見とれて帰宅した夜、私は運悪く発病し、救急車のお世話になり入院生活となり、折角の健康維持活動もPR紙も途中で断念することになってしまいました。

私はこれをきっかけに一人暮らしにも終止符を打つことになり、退院と同時に子供の家で世話になることになりやむなく移転。終の住みかとして考えて作った我が家をあとにするという不便と寂しさに、高齢者の移転は考えなくてはならないと思いました。こんな経験をこれから高齢を迎える方たちの老後についての心がけとして地域活動の一環として語りたいと思いました。

新しい町に住みはじめて数年、大分元気になりましたので、こちらでは何をしたらよいかそんなある時、練馬区立女性センターを見つけまし

て「哲人の会」という会に入りました。そんな私に早速昔の話を聞きたいと多数の声があり、OKして私は立ち上がりました。

「12月8日についての話」そんなタイトルの話で語ることになりました。戦争勃発のあの大変な日のことです。私は当時17歳、あれから困難な日々が続きました。戦争中は関東軍の一人として牡丹江に駐在していました。そんな思い出を語っているとき、女性センターの運営委員の候補として推薦を頂き運営委員に（平成18年）依頼されることになりました。そのセンターの活動は女性の啓発活動を主とするものと考えました。他に私は地域の皆さんの声を拾って何かと啓蒙になる努力をしたと思います。ていましてので、先ずみなさんの声を区長への手紙で提案することから始めました。また軽い健康維持のための散策として公園を歩く仲間を作ったり、認知症にならないよう講座に参加したり、あちこち見学に出かけたり、例えば市ヶ谷の自衛隊を見学したりして、心を若く元気に皆さんの声に耳を傾けました。区長への手紙として提出してきましたものは次のようです。

その一、見通しがきかない街路樹の剪定依頼。

その二、街角の自転車の駐輪違反の撤収依頼。

その三、上下水道、ガス工事などで道路を掘削した場合、周辺と同じ砂利混合率で舗装をされるよう。理由は足の不自由な人がひっかかって転びそうになるから。

その四、ゴミ回収制度の変更についてのビデオで誰でも分かるような説明にしてほしい。

その五、スーパーなどで生鮮食料品の販売用の商品などについて、トレーに尚ラップで包むという二重手間を、ゴミ減量という今日、無駄だから省けないかと消費者センターや区長に提案。

その六、自転車駐輪場の整理方法について、ストッパーなど設置されたい。

その七、役所の施設などへの施設周りバスなど、交通便を考えられな
いか。

などいろいろみなさんの声を纏めてお願いし、その結果はよくなったり、

困難だったり回答を見るのも楽しみでありました。その回答を発表したり、私の社会貢献的な小さな活動も少しづつ板についてきました。

公園の周辺歩き（一周4キロ位）概ね70歳くらいの高齢者のグループが散歩道としていているようで、歩きながら忌憚のない自分史を愚痴と一緒に語りあったり聞き入ったり、社会勉強としてそのひとつひとつが人生勉強のようでした。

例えば息子の家より娘の家の方が住みよいか、だからこちらに移動してきたとか、取り留めのない話ではありますが、これは老人たちの住まいの知恵かもしれません。幾つになっても私たち高齢者は、地域に連れ合いをもった暮らしをしていかなくは駄目になると考えました。私も85才になり、これまでの地域活動に支えられたり支えたりして生きてきました。元気で社会生活ができる人として生きていきたい。只今は、おれおれ詐欺の講座にでたりして、勉強して時代を有意義に過ごしてきたと思っております。

世の中の変化は激しくIT、携帯電話、パソコンなどをマスターしな

くは暮らしにくい世の中になってきました。従って地域力を発揮するには、暦年齢に関係なく毎日を豊かに生きるために、いつまでも自分づくりに努力できる身体にしておきたい。健康維持これが究極の社会貢献になるとかと本テーマに応募した次第です。